

<p>特定非営利活動法人 赤煉瓦俱樂部舞鶴</p>		<p>NPO法人 赤煉瓦俱樂部舞鶴 会報 発行人/理事長 馬場 英 男 〒625-0036 舞鶴市浜 247 番地 (志摩機械三糸ビル3階) TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764 E-mail brick@iris.eonet.ne.jp</p>	
<p>会報90号 平成26年11月1日</p>		<p>「NPO法人赤煉瓦俱樂部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/</p>	

目 次

1 平成26年度「京都創造者大賞2014」受賞報告	4 連載『我が国の近代土木遺産3』	こいけりか 氏
2 第4回近代化産業遺産視察旅行(岡山市犬島)報告	5 「最新の耐火物—現代文明の陰の主役」	小野 章 氏
3 連載『舞鶴の風景1』成生その3 日向 進 氏	6 その他 ・旧丸山小再生活用事業 ・編集後記	

1. 平成26年度「京都創造者大賞2014」受賞報告 事務局

9月11日、京都創造者大賞顕彰委員会(京都府、京都市、京都商工会議所)主催の「京都創造者大賞2014」の授賞式が龍谷大学響都ホール(京都市南区)で開催され、大賞の西陣織工業組合に続く、京都創造者賞4部門の内「もてなし・環境部門」表彰を当法人が受賞しました。今回が8回目を迎えるこの賞は、「日本国内または世界に向けて、京都府域における『京都ブランド』のイメージアップや京都の都市格向上に、著しく貢献したと表彰」するもので、当法人に対する審査講評は「舞鶴の赤煉瓦建造物は、舞鶴市役所の有志者が始められ、舞鶴市民の共感や参画を得ることで次第に大きな流れとなり、『舞鶴赤れんがパーク』の実現に至った。この草の根活動に支えられた創意溢れる文化事業の積み重ねを評価し、もてなし・環境部門での創造者賞を呈することとした。市民の憩いの場であるとともに、「海の京都」の玄関として、舞鶴の文化と観光の創造の拠点となるよう、さらなる持続発展を期待している。」

授賞式では、千玄室委員長の開会の辞、西陣織工業組合への大賞受賞に続き、山田啓二京都府知事から馬場英男理事長が表彰状・トロフィー・副賞を授賞しました。式典内容を以下のとおり報告します。なお、当法人からの出席者は、馬場理事長、日向・梅本副理事長、世良理事の4名でした。



オープニング「サイラーピアノデュオ」



開会の辞 「千 玄室 氏」



山田京都府知事より馬場理事長 代表して受賞



馬場理事長より受賞挨拶及び活動報告



表彰登壇者



記念講演 「岡須家・名和晃平、華道家元・笹岡隆甫氏」

8月30日(日)、4回目となる近代化産業遺産視察旅行を開催し、26名の参加で岡山市の犬島に出かけました。舞鶴6時30分発、20時帰着とハードでしたが、快晴で良い天候に恵まれ、船旅、異空間・現代アートとの遭遇など、全身に刺激を受け、参加者好評価の視察となりました。特に、直島の(公財)福武財団の笠原部長による直々の、犬島製錬所美術館のコンセプト、家プロジェクトのテーマ「桃源郷」などについて熱心で詳細なガイドをしていただき、深く理解・体感することが出来ました。視察状況を以下のとおり報告します。



岡山市宝伝港から犬島まで約10分



犬島港到着



犬島 yacht センター (ヒデオ、昼食)



犬島製錬所美術館



発電所跡をバックに記念撮影



家プロジェクト F邸 (名和晃平作)



石職人の家跡 (淺井裕介作)



S邸 (荒野明香作)

2. 連載『舞鶴の風景 1』 「舟屋のある漁村落集・成生(なりう) - その3 -」

副理事長 日向 進 (会員NO.59、京都工芸繊維大学名誉教授)

鯰(ぶり)の大敷網を導入したことによる漁獲高の上昇や副業の養蚕による収入増により、明治末頃から住宅等の建て替えが一気に進んだようです。平成6年度から8年度にかけて行った丹後の漁撈習俗調査の際、鯰景気による新築ラッシュの時期に作成された家相図が多数のこされていることが分かりました。かつては「場持」「無場」という、個人所有の漁場の有無による階層構造が存在しましたが、全戸を組合員として結成された漁業組合は漁業収入を均等配分し、また各戸が小定置網漁を行ったことにより、均質な社会構造となりました。

住宅も平準化していて、「四六」、つまり梁行四間、桁行六間と呼ばれる規模(4×6=24坪)と間取りをもつものが基準です。明治末年以降に建てられた主屋は棧瓦葺き、二階建てで、棟に煙り出し(空気抜き)の越し屋根を設けています。主屋や舟屋、土蔵の瓦は小浜(福井県)の西津から海路で運ばれてきたそうです。棟の両端にのる鳥衾(とりぶすま、瓦の一種)は若狭地方で使用されている「立浪型」と呼ばれるものです。



漁業組合 (中央)



越し屋根のある主屋 (後方)



立浪型の鳥衾 (とりぶすま)

越し屋根は養蚕のための温度調整(暖房)用に設けられました。成生での養蚕の始まりについて『生ひたち録』には、「明治二十五年頃ヨリ巡回教師ヲ聘シテ盛ニ二堂ミタリ」と記されています。20戸の組合員が家族以外に臨時に雇った人数は1年に600人だったそうです。明治29年(1896)に綾部(京都府)に郡是製糸(現・ゲンゼ)が開業したこともあって、養蚕は不安定な漁業収入を補ってききましたが、第2次大戦の激化とともに人手不足となり、以後は行われなくなりました。

漁業組合の右に隣接する二階建ての舟屋は長屋形式で「シチケンブン」と呼ばれており、内部は7つに区画されています。左の3区画は各1戸、右の4区画は各2戸が共同で使っています。現在のものは大正3年(1914)に建てられたそうです。古写真を見ると、以前は茅葺きで入母屋造りでした。二階建てではなかったようですが、大きな屋根裏は漁具置場などとして使われていたのでしょう。他の独立型の舟屋も多くは茅葺きで、正面は入母屋造り(背面は切妻造り)でした。



「シチケンパン」



独立型舟屋（中央）



土蔵の前にも日引石が

茅葺きの舟屋が瓦葺きに改める契機の一つに次のような出来事があったようです。それは明治42年（1909）5月31日の舞鶴町西吉原（現・舞鶴市）で大火が発生し、住宅や舟屋など200余棟が焼失したのです。主因は茅葺きの屋根にありました。そのため「草屋講」が組織されて順次瓦葺きに改められていきました。このようなことが、脚景気のもと、瓦葺きを進めることになったのでしょ。

（事務局からのお知らせ）次回から「西舞鶴」を連載予定です。年内に先生とぶらぶら街歩きます。

**3. 連載『我が国の近代土木遺産 3』～ ドボクイサン重箱の隅～
こいけりか（特別会員 NO.87（公財）日本交通公社勤務）**

私は、関東の京浜地区（東京・蒲田）の出身だが、舞鶴の街なかを歩くと自分の生まれ育った地域との違いを大きく感じさせられるものがかいくつか目に入ってくる。市内を自動車移動している時や歩いている時に一番気になったものが、各所で見られる海面の高さであった。舞鶴の人たちにとっては、見慣れた日常風景なので、「何を言っているのか？」と思われるかも知れないが、道路沿いの護岸越しの海面や感潮河川と思いまちなかの小河川の水面は、関東のそれよりも非常に高いことが気になっていた。日本海に面した舞鶴と太平洋に面した京浜地区という海自体の違いなのだろうが、最初に気づいた時は、舞鶴湾の奥の静かな海面が、ヒタヒタと迫ってくるような小さな不安感さえ覚えたものだ。

そんな京浜地区と舞鶴の海面、水面の高さの違いを画像で見ると以下のようになる。



画像①横浜の象の鼻の海面



画像②西舞鶴の道路脇の海面

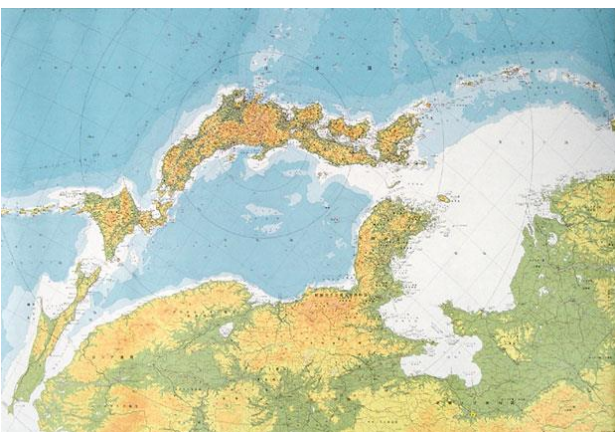


画像③東舞鶴の感潮河川の水面

画像①は、数年前の改修で横浜の観光地となった「象の鼻」だが、明治時代の波止場と石積み護岸を復元しており、今日の石積み護岸勾配よりも緩い傾斜になっている。画像①は、上部から見た干潮時の海面だが、石積み護岸に付着した貝殻や海水の跡を見ても、護岸上部の歩道面から満潮時で約1.0m、干潮時では約2.0m程度下方に海面がある。画像②と③は舞鶴市内の海面と感潮河川の水面だが、道路面と水面の距離は、画像②で約60cm、画像③ではおおよそ20cm程度と思われる。太平洋側の横浜と比べると、やはり日本海側の舞鶴の海面は高いことが分かる。

この水位高の違いを考えていくと、日本海そのものの大きな特徴につながっていることに気づく。

画像④は、「環日本海諸国図（さかさ地図）」と呼ばれ、ご存知の方も多いと思うが、1995年に富山県が国土地理院長の承認を得て作成したもので、ユーラシア大陸と日本の内海状態の日本海に、対馬海流とリマン海流の2潮流が南北両方から海水を流入させている。片や太平洋は、黒潮と親潮の2大潮流があるものの、海水は中に向かって流れ、大きな海溝がある海底地形も影響して、潮位差による干満は大きい、水位は低く保たれていると推測できる。内海の日本海では、流入する海水は太平洋ほど大きな動きをせず、潮位の変動も小さいため、舞鶴湾の奥にある舞鶴の街では、このような潮位の状態が顕著になることから、高い海面が保たれているのであろう。



画像④環日本海諸国図～海洋政策研究財団サイトより

4. 「最新の耐火物—現代文明の陰の主演」展について 理事 小野 章(会員NO.9 赤れんが博物館勤務)

この10月18日(土)から舞鶴市立赤れんが博物館で開始された標記の企画展についてご案内します。

人類は産業革命以降高度な工業的発展を遂げ、宇宙開発を行うまでになりましたが、その中で耐火煉瓦・耐火物は重要な役割を果たしてきました。当館でもすでに幕末・明治期の耐火煉瓦や溶鉱炉の耐火煉瓦などを展示しておりますが、この度、製鋼所の連続鋳造工程で使用される部品や産業各分野で普及するファインセラミックス、そして宇宙往還用実験機の断熱タイルなど通常は目にする事の稀な耐火物を展示することになりました。

この機会にご来館いただき、技術立国日本の底力を感じ取っていただけますと幸いです。特に、宇宙往還用実験機は日本版スペースシャトルを見据えたもので、非常に珍しいものです。なお、今回の展示は品川リフラクトリーズ株と関連会社のご協力を得て実施されたものです。



博物館2階 展示状況



宇宙往還用実験機の断熱セラミックタイル



記事とは関係ないですが、寄贈絵画を展示しています

城場市在住の岡 英治氏(昭和美術会所属)の油絵「禎山砲台」100号

5. その他

事務局

1 旧丸山小学校再生活用事業について 昨年5月から開始した、舞鶴市大浦半島の若狭湾に面した農漁村集落三浜・小橋地区に残る舞鶴市唯一の木造校舎「廃校旧丸山小学校」の再生活用を目指した活動も、両区民の理解を得て地道に清掃・樹木剪定など進めています。

「全国高専デザインコンペ2014 in やつしろ」への舞鶴高専の旧丸山小活用提案に協力、予選を無事通過し、11月8-9日開催の本選に挑戦します。また、近夏、丸山小学校校舎二階まで育てた朝顔プロジェクトが契機となり、丸山小学校をメイン会場として来夏「明後日朝顔プロジェクト2015」が開催予定です。全国から多くの来場者で、再生活用活動が広がることを願っています。(b)



三浜岬からの絶景(遠方に冠島、集落右端に丸山小)



明後日朝顔プロジェクト at 丸山小



校舎内清掃・周辺樹木剪定作業ましま完了状況

2 編集後記 STAP細胞報道も、記事を探すのに苦労するほどめっきり少なくなりました。早稲田の博士論文も、不正行為と認定しつつ、1年間猶予付き取り消しとなりましたが、大学側のチェック体制不備で総長以下関係者の処分発表がありました。今だに、肝心のSTAP細胞は出来ないようで期待がすぼみつつあります。しかし、今しばらくは見届けたいと考えています。

前号でお知らせの11月8-9日開催の「赤煉瓦ネットワーク富岡大会」に舞鶴から7名が参加します。次号でご報告します。(b)

会 員 資 格： 会費納入者(特別会員は除く)。入会金 1,000 円、年会費(個人 2,000 円、法人 10,000 円)。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名： 赤煉瓦倶楽部舞鶴